

未来の命を守るための貯金箱

河津町立河津中学校 2 年 酒井 聖夜

「税金」と聞くと、なんとなく大人が払うお金というイメージがあって、自分には関係ないことだと思っていました。でも、お正月、家族と団らんしながらニュースを見ていた時、石川県で大きな地震が起きたことを知りました。倒れてしまった家や寒い中で避難する人達の様子をテレビで見て、
(自分だったら、どうするだろう) と考えずにはいられませんでした。

その中で、避難所に送られた食料や物し、仮設住宅の建設などに税金が使われていると知りました。税金って、誰かの命や暮らしを支えているんだ、と初めて実感しました。その時私が思ったのは、税金はまるで「未来の命を守るための貯金箱」みたいだということです。普段は目に見えないけど、いざという時のために、みんなで少しずつお金を出し合って困っている人を助ける、その仕組みは、まさに貯金と同じです。違うのは、自分だけのためじゃなくて、みんなのために使われるという点です。学校も、病院も、消防も、道路も、いつも当たり前のように使っているけど、それを支えているのは税金です。例えば私達は授業料を払わずに学校に通えています。教科書も無料で配られ、校舎の修理などにも税金が使われています。このことを知って、今まで気づかずに受け取っていたものが、たくさんの人の支えの上に成り立っていたことに驚きました。

私はまだ中学生で、消費税以外に本格的に税金を納めるようになるのは、大人になって働き始めてからです。でも、こうして安心して暮らせているのは、税金という「貯金箱」があるおかげだと思います。そして、将来自分が働くようになったら、今度は自分がその貯金箱にお金を入れて、次の誰かを支える番が来ます。

税金はただ「取られる」ものではなく、「支え合うための貯金」です。使い道をよく考え、むだがないようにすることも大切ですが、それ以上に、命や暮らしを守るために使われていることを忘れないようにしたいです。

私はこれからも、税についてもっと学び、正しく知りたいです。そして、大人になって税金を納めるようになったとき、自分のお金が誰かの未来や命を守るために役立つと信じて、誇りをもって納めたいです。税金は、未来の命を守るための貯金箱。その思いを、これからも忘れずに心にしまっておこうと思います。